

【発表者】

熊田陽子（首都大学東京／日本学術振興会特別研究員 SPD）

【コメンテーター】

新ヶ江章友（大阪市立大学大学院創造都市研究科／准教授）

【日時】 2016年11月11日（金）18:30 開演（18:00 開場）

【会場】 京都大学・総合研究二号館 4階 AA447

都市部を中心に巨大な市場を形成する日本の性風俗産業は、「裏（社会）」といったイメージで周辺化されることが少なくないが、一部を除いて通称「風営法」（あるいは「風適法」）に則った適法な運営を行っており、多くの人々が関与している。その意味で、適法的運営から成る性風俗産業は、現代日本の公的領域—すなわち、政治・経済・文化（ここでいう「文化」とは、日常の文化でもあり、日常を創り出す法制度の文化でもある）—に包摂ないし接合された、「性風俗世界」と呼べるような存在と理解できるだろう。

本発表では、性風俗世界に関わる人々の中でも、そこで働く女性たち（「おんなのこ」）に焦点を当てる。「おんなのこ」としての日常では、様々な関係が作られる。客との関係においては、生殖と切り離された「遊び」としてのプレイを通じて、客を楽しませることが仕事となる。他方、同僚の「おんなのこ」との関係では、なるべく多くの客を獲得することを目的とした、いわばゲームが展開される。（ただしライバル関係にありながらも、「おんなのこ」たちは、笑いの実践を駆使することでつながりを作ることもある。）こうした「遊び」やゲームという「おんなのこ」の日常の基盤となるのが、人々の関係作りについて都市空間がもたらす可能性である。「おんなのこ」である時、その人は、自分が持つ複数のネットワークの存在や内実を秘匿し、部分的「自己」において他者と関係を作る。それは、見知らぬ大量の人々が密集する都市で、人々の群れに隠れることによってこそ可能となる。本発表では、これを都市的一部分的「自己」と規定し考察を行う。

なお、発表の中では、現在調査研究を実施しているオランダ・アムステルダムの合法的赤線地帯にある通称「飾り窓」で働く人々にも触れ、東京の事例で確認した関係性のあり方と比較検討を行いながら、今後の研究の方向性について言及する。

▽会場へのアクセス（京都大学吉田キャンパス本部構内）



【備考】

- * 京都人類学研究会は京都を中心とする関西の人類学および関連分野に関心をもつ研究者・大学院生がその研究成果を報告する場です。
- * 事前の参加予約は必要ありません。どなたでも自由に参加いただけます。
- * 当日は資料代として200円いただきます。
- * 講演会後に懇親会を予定しております。

【お問い合わせ】

kyojinken2016@gmail.com（京都人類学研究会事務局）

京都人類学研究会 2016年度代表：平野（野元）美佐 代表補佐：田中雅一

部分的「自己」で作られる都市的関係に関する考察へ
—東京の性風俗世界からアムステルダムの「飾り窓」へ